

「良書ご案内」

書籍名	歴史総合	著者名	北村 厚
出版社名	株式会社 KADOKAWA	発行年月	2023年10月

画期的な歴史教育が始まっている。そのための新しい教科書、参考書が次々と出版されている。歴史上の出来事は従来と変わらないが、歴史の学び方、コンセプトが大きく変わった。とにかく面白くて、社会人にとって必須教養と思っている。

日本の歴史は国内だけで完結しているのではなく、世界情勢の影響を強く受けていること、また現代は過去の出来事と繋がっていることを強く意識させる内容となっている。

2022年から新しい科目「歴史総合」がスタートした。すべての高校生の必須科目となり、2025年度から共通テストで初めて出題される。変更前の日本史A(幕末から現代までの日本史)と世界史A(大航海時代から現代までの世界史)を統合して「歴史総合」が新しく誕生した。その狙いは、丸暗記から脱して出来事の背景・原因・結果・現代との繋がりなどについて深く考えさせたいということだ。暗記力以上に、読解力と資料の理解力、物事を筋道立てて考える力が要求され、「生きた教養」が求められる。

新学習指導要綱から読み取れるコンセプトが3つある。

- 1.近代化…産業と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと。
 - 2.大衆化…大衆の政治参加、女性の地位の向上等により変化したこと。
 - 3.グローバル化…科学技術の革新を背景に人・資本・情報等が国境を超えることによる変化。
- この3つのコンセプトで近現代史の歴史事象を眺めると、歴史の姿が整理されてくる。キーワードは、国民国家、資本主義、民主主義、冷戦、グローバル化、大衆…

歴史は政治・経済のみで構成されているのではない。当時の人々が何を考え、そうした行動を行ったのか？文化史・思想史などの人間の内面的な理解が不可欠となっている。過去の歴史が身近な存在となり、過去に生きた人たちに新たな思いを馳せることができる。大航海時代から世界をリードしてきた西欧社会、それが生み出した民主主義は、共に役割を終えたのだろうか？

政治や経済だけが人生ではない。歴史から生き方、人生観を学ぶこともできる。高校生が学び始めた歴史総合を、社会人である私たちも学ぶのは如何でしょうか？

岩 城



編集後記

いつも行くうどん屋さんがある、出汁がおいしくて、いつ行っても満員。すこしやんちゃ風な大将が、帰り際に寄付して行って下さいよーと募金箱を指さした！なんとこども食堂をしているというじゃないか。子供たち喜ぶのだらな、きっと…

東京都大田区で誕生したという「こども食堂」2016年には319ヶ所だった→2018年2,286ヶ所→2020年4,962ヶ所、2023年には9,132ヶ所に。私の通う、うどん屋のようにこども食堂は地域をつないでいる。※NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえより

神奈川県寒川町で生まれた「赤ちゃん食堂」は子ども食堂の赤ちゃん版であり、産後1カ月健診後の母たちの心の拠り所。2022年に助産院を開院した菊地愛美さんは、2週に1回、6組限定の「赤ちゃん食堂ままな」を始める、赤ちゃんには無料で離乳食を母親には400円で野菜たっぷりの食事を提供。ままなは、離乳食完了期までの赤ちゃんとその家族の“食と育児”の駆け込み寺。1人目の子供を授かった母親はみな等しくビギナー、不安いっぱい。そこへ新型コロナウイルスの流行があり、産後うつ母親達が増えていると感じた菊地さん。地域ぐるみで赤ちゃんを見守り子育てできるようにしていけたら、その一歩となれば。賛同者は

続々と、近隣の農家は野菜を、食品を扱う企業は食品ロスになりそうな食材を提供、地域にお金や人の循環が生まれるようになってきた。お母さんや赤ちゃんたちを支援したい人は沢山いて、ボラ頼みでは長続きしない、支援者が疲弊しない循環の仕組みが必要だし、支援したい人を支援することも大切と菊地さん。「人を頼って、その分また人に返せばいい」この言葉は私も同感！

発行所:株式会社ライブデザイン研究所  全国に広がるこの活動。  地域コミュニティの力が子育て支援を可能にした事例だ。

所在地:〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サピル2F

Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤